

# 第2部 感謝のつどい

## ～お客様と心をかよわす会～

感謝の会の第2部では、「感謝のつどい～お客様と心をかよわす会～」として、人間ドック受診者や保健師などの立場から5人のパネラーに登壇いただいた。自身の健康法や当協会に対する質問・意見をいただき、それに対して協会代表者3人が回答した。受診者と企業・団体担当者の思いを把握し、双方の心をかよわすことができた。ユーザーの立場からの意見を真摯に受け止め、さらに満足度の高いサービスを目指すための貴重な場となった。

### 協会代表者



神奈川県予防医学協会 運営部 部長 五十木 孝子  
神奈川県予防医学協会 事業局長 根本 克幸  
神奈川県予防医学協会 検診計画部 部長 野口 正枝

### ご意見をいただいたお客様



日本発条健康保険組合 常務理事 田中 克彦様  
大学教員 人間行動学博士 田中 喜芳様  
中央労働金庫 総務人事部 健康支援部門 保健師 井川 美有紀様  
元地方自治体職員 山崎 孝雄様  
元川崎市総務局長 現在 川崎市観光協会 専務理事 青木 茂夫様

**ご意見1 田中 克彦様**  
「手軽な費用と人間ドックの待ち時間を短縮できないか？」  
健康法は、運動・睡眠、笑いを心がけています。週末はスポーツジムでマシントレ、ランニングや水泳をし、1日1万歩は歩くようにしています。健診に対する敷居がもう少し低くならないかなと思います。費用面でも手軽に受けられればと思います。人間ドックの待ち時間が長いと感じるので短縮できないでしょうか。担当医師が若いと不安になりますが、ベテランスタッフがいますので点は安心していきます。

**ご意見2 田中 喜芳様**  
「人間ドックの結果で一番気になるのはがん」  
毎日、速足で約40分歩くのが私の健康法です。5年前に妻を特殊な乳がんで亡くしました。今の健診治療に限界があるのは承知ですが早期発見から完治も可能。皆に受診を勧めたいです。ドックの結果が一番気になるのはがんです。歳を重ねると健康は短期間で大きく変わる恐れもあるので、近医の主治医で定期的な血液検査を受けています。年1回のドックの他に採血だけでも年何回か協会を受診できればと思います。

**ご意見3 井川 美有紀様**  
「1次検査から胃内視鏡の検診を選べるようになるようだが？」  
健康法は、スポーツジムに週2回通い、エアロバイクなどの有酸素運動もしています。血圧なども気にして、食事は減塩に努めています。協会への意見としては、乳がん検診への安心感があります。胃の検査は1次検査から胃カメラでの検診を選べるようになりませんが、精度についてはいかがでしょうか。

**ご意見4 山崎 孝雄様**  
「厚生労働省の研究事業に参加。生活習慣に注意することが大事」  
10年前に、厚生労働省委託事業として行われた薬を使わずに血糖値を下げるプロジェクトに参加しました。ウォーキングを10年以上続け、1週間で10万歩を歩いています。週2回は休肝日を設け、夕食は控えることを心がけています。血糖値は下がった状態で持続しています。健康維持のためには目標を持つことが大事だと考えております。協会は顔見知りのスタッフの安心感があり、居心地良く感じます。

**ご意見5 青木 茂夫様**  
「健康づくりや認知症予防などの教室も開いてほしい」  
健康法は早寝、早起き。毎朝、加齢とともに劣化する股関節を中心にストレッチ体操をし、月100kmを目標にランニングをしています。カスビ海ヨーグルトをつくるなど、バランスの良い栄養摂取に努めています。自分の健康は自分で守る時代なので、たとえば健康腕時計の購入費やドック受診料など、病気の予防に繋がるような経費は、医療費と同じように税控除の対象になると良いと思います。協会には、健康づくりのためのカルチャースクールで、社会参加できるものや、今私たちが一番恐れている認知症予防などの教室を増やしてほしいと思います。

**回答** 協会では、「ピンクリボンかながわ」の事務局として、乳がん検診の受診率向上と乳がんについての知識の普及・啓発を行い、草の根運動として進めております。がんが心配で、人間ドックを受けられる方は本当に多いと思われまます。そのために「ACCクラブ」という、がんに特化した会員制の検診をご用意しております。精度の高い精密検査を行うことで早期発見を可能にし、万が一がんが発見された場合でも、責任を持って、的確に専門病院を紹介いたします。手術などの治療が済んだあとも、がんには負けないために、セカンドオピニオンの開設や、専門病院とのクリティカルパスを活用して、治療後の適切な支援まで行っております。また当協会では、平成27年度より、個人会員制の人間ドックを導入しました。個人会員になられた方は専任医師により、1年後の人間ドックを待たずに、結果に即した検査を適切な間隔で実施できるようになっております。主治医の先生には病気の治療を中心に、当協会はトータルな視野での健康管理を行い、お互い得意分野で連携をし、皆さま方の健康の羅針盤になっていきたいと思います。

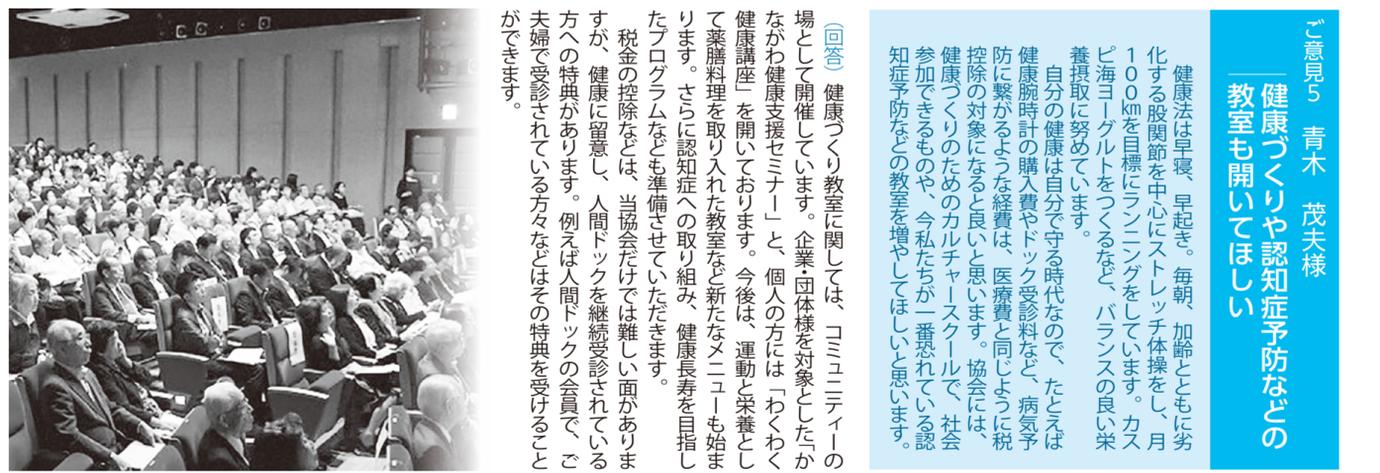
**回答** 乳がん検診など、1次検査から2次検査、必要な場合は、各教室や専門外来の紹介、他機関の紹介などの医療連携により、フォローアップをさらに充実していきたいと思っております。胃の検査については、厚生労働省の「がん検診のあり方に関する検討会」で「胃内視鏡による胃がん検診は、対策型検診として実施する事が適当である」とされました。それともない、当協会でもなるべく苦痛の少ない経鼻内視鏡の検査も実施するようになりまます。またヘリコクター・ピロリ菌の抗体検査もご希望には実施しております。その結果、除菌が必要な場合には慢性胃炎などの診断のもと、保険適用で除菌治療も行っております。



### フロアからも発言

パネラーとの意見交換の後には、会場からの発言の時間を設け、各方面からの声を交換した。1人目は、健康保険連立会神奈川連立会員の早稲田修様(右写真3人上)。個人では運動やボランティア活動に力を入れ、健康保険連立会では健康フェスタなどのイベントを開催していることを紹介した。2人目は、全国健康保険協会神奈川支部・保健グループ保健師の佐藤世津子様(右写真中)。データヘルス計画の中で課題を抽出し、健康増進への改善をしている。神奈川県は女性の喫煙率が高いことから禁煙対策やピンクリボンかながわの啓発活動に参加していることを話した。そして横浜市水道局総務課の尾和弘朗様(右写真下)が、災害に備える、健康に備えることの大切さをアピール。7年も保存可能なピンクリボンのロゴマーク入りの備蓄水缶は、参加者にも1本ずつ配布された。

最後に、「今後さらに皆さまとともに意見を出し合っても、ともに健康づくりを進めてまいります。健康で長寿を保つライフスタイルのため、当協会は、安心・安全で信頼していただき、満足していただける総合健康支援機関として努力してまいります」と参加者への感謝とともにこれからの協会の思いを伝え、閉幕した。



## 私と協会

-60周年に思うこと-①

神奈川県内広域水道企業団企業長 古尾谷 光男

古尾谷 光男氏  
昭和49年4月 神奈川県入庁  
平成14年4月 神奈川県総務部人事課長  
平成17年4月 神奈川県行政改革担当部長  
平成18年4月 神奈川県企画部長  
平成20年4月 神奈川県理事(特定行政課題担当)  
平成21年6月 神奈川県副知事就任  
平成25年3月 神奈川県副知事退任  
平成25年7月 神奈川県内広域水道企業団企業長就任

設立60周年おめでとうございます。公益財団法人として、県民の健康づくりの中核機関として益々発展されることを祈っております。平成20年は、がん対策への関心が高まり、県議会でがん対策推進条例が制定され、県内各地で様々なイベントも催されました。当時、受動喫煙防止条例の推進等が私の仕事でした。様々な議論を経て、翌年制定されましたが、医療機関の皆様が一致して応援していただいた事は、本当に心強く、協会の皆様にも温かい言葉をかけていただきました。保健福祉行政を担当する立場から、土屋理事さんら協会の皆様にお会いする機会も増えました。活動やピンクリボンについて、熱意のこもった説明を受けました。私も母をはじめ何人も大切な人をがんで亡くしています。少しでもピンクリボンをつけることにしました。初めは「何ですか?」とよく尋ねられました。大塚橋近くのラーメン店で、「ピンクリボンですね」と声をかけられた時は、ちょっと嬉しかったです。水源地から水道用水を県や市に供給する神奈川県内広域水道企業団にいます。健診を協会にお願いしている縁もあり、県民にお配りしている「水缶」にピンクリボンをと職員から提案があった際には、一も二もなく賛成しました。好評です。水道は公衆衛生が起源です。安全な水は県民の健康の礎と自負しています。協会の健康づくりの取り組みと相通するものがあります。これからも、応援してまいります。そう思っています。

創立60周年を迎え、今まで協会活動にご協力いただいた方々から、これまでの思い出やこれからの活動への期待などを連載していきます。